

愛知国際病院ホスピスだより

2012. 1

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31
電話 代 表 (0561)73-7721
ホスピス (0561)73-3191

夢を見続けよう

理事長 川原 啓 美

こういうことばがあります。

“The key to happiness is having dreams. The key to success is making them come true.”

「幸せへの鍵は夢を持つことであり、成功への鍵はその夢を実現することである」(出典不詳)

このことばに会った時、私は米国で胸部外科の研修留学中でした。30代前半の頃です。

その留学に出かける直前、私はある会の機関紙に、帰国したらアジアの国との医療協力活動に従事するか、キリスト教主義の病院を設立する、と公言していたのです。どちらもかなりの決心を必要とすることですが、私は医学生の間からそのような夢があり、米国での研修もその道程での計画だったのです。

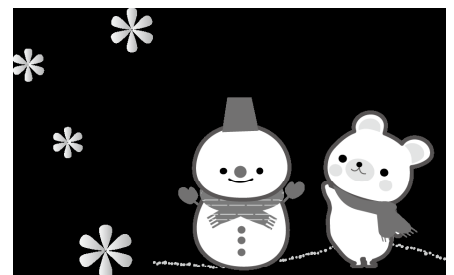
しかし実際にその研修を始めてみると、それは想像を絶する劇務で、責任も非常に重く、一年経った頃には、もう中断して帰ろうかと思うほどでした。

その時、あるアンティーク・ショップで出会ったこのことばは、私の頭に鉄槌をくらわせるほどの衝撃を与えました。

「ああ、自分は何年も前から心の中に抱きつづけていた大切な夢を忘れかけていた。何と愚かなことだったろう」。考え直し、3年間のコースを終えて帰国した私は、その後ネパールでの短期医療協力などを経て、いろいろな困難も神様のお恵みと多くの人びとに助けられて乗り越えることができ、現在の働きに到達しました。

さて私たちは新しい年、2012年を迎えております。愛泉会もAHIも、30周年を超えた大きな節目の時を迎えております。しかし、世界の政治、経済の大変動、特に日本が昨年体験した東日本大震災と恐ろしい原発事故という大事件の直後に、これからの10年、20年を見通して歩いてゆくのは決して容易ではありません。

私たちはこれからも毎朝全員が集まり、聖書のみ言葉を聞き、果たすべき役割は何か、どのようにそれを進めるのかを祈り求めてまいりたいと思います。



ケアとは、いつくしみ、いとおしむこと」その2 看護主任 成田昌代

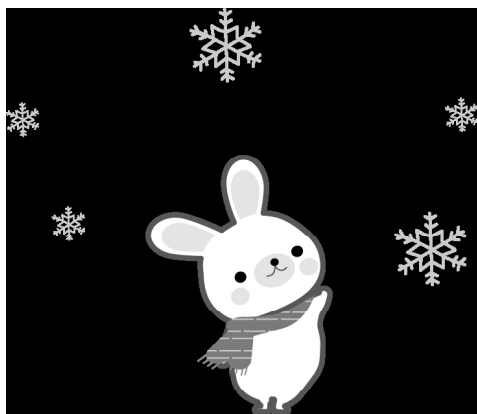
前回に引き続き、成田看護師に話を聞きました。成田看護師は、日頃、看護師たちの指導にあたりながら一緒にケアを行っています。

ホスピスで働く看護師は、互いに助け合いながらも自分に与えられた役割の中で、何をすべきか決断しなければならないことが多いと思います。そのため患者さんのその時の必要に応じてお手伝いできるための知識と技術が必要になります。それを私は「ケアの引き出し」と呼んでいます。引き出しは、できるだけたくさん持っているのと役に立つことが多いと思うのですが、とくに大切な引き出しは二つあります。

一つめは「身体の症状をケアするための知識と技術」です。ホスピスに来ていただいて、まず大切なのは、身体の痛みや熱、不快感などといった様々な症状から解放されることだろうと思います。また一旦楽になった症状がまた出現したり、新たな症状に悩まされることもあります。私たちはそれらの症状が強くなる前に、患者さんの訴えられることやちょっとしたお身体の変化を見極めて、できるだけ早く対応しなければなりません。そのために正しい知識、技術や感性が必要となるのです。

二つめは「その方の内面に触れるための心」です。私たちが患者さんに接する働きの中にお身体を拭くということがあります。お身体を拭くのは、看護の中でも基本中の基本ですが、その中で実は患者さんのさまざまなことを知ることができるのです。お身体を拭きながら、患者さんが見せてくださる何気ない表情から、患者さんが何を気持ちいいと感じていらっしゃるかを知ることができますし、身体がほぐれリラックスなされると、何気ない雑談から、ご自身がどのように過ごしてこられたのかを伺うこともできます。その方のお身体に触れ、言葉に触れることを通して、その方にとって、看護師がどのようにあれば、居心地よく、安心して過ごしていただけるかを感じることができるのです。

ある方は、とてもお話が好きで、看護師がお身体を拭いていると、窓の外に見え



る山野草を見ながら、その名前やそれにまつわる様々な話を楽しそうにして下さいました。そういった関わりの中で、その方がしっかりとご自分の思いを相手に伝えたい方だということが窺えました。そういったその方のあり方を最期までお支えるために、私たち一人ひとりが「ケアの引き出し」を増やせるよう、励んで参りたいと思っています。

聖ヨハネホスピスを見学して

ボランティアコーディネーター 高田 清子

ボランティアグループ「紫苑」では、研修のひとつとして他施設の見学を行なっています。今回は、昨年12月9日に、東京都小金井市の桜町病院聖ヨハネホスピスを訪問しました。ここは「病院で死ぬということ」をはじめ多くの著書がある山崎章郎医師が初代ホスピス部長を勤められたところなので、ご存知の方も多と思います。

当日、名古屋は快晴だったのですが、東京は雪がちらつきそうに冷え込んでいました。私とボランティア7名は、最寄駅からタクシーで向かいました。徒歩でも駅から15分位でしょうか。目指すホスピスは、商店の立ち並ぶ大通りを曲がり、静かな住宅地をしばらく走ったその先にありました。一般住宅がすぐ隣りにあるのですが、木々に囲まれ静かで落ち着いた雰囲気です。入り口でボランティアの皆さんの出迎えを受け、玄関をくぐりました。吹き抜けの玄関は美しくクリスマスの飾りつけがされて、訪問者全員小さく「わぁー」と声をあげてしまいました。通された研修室では、すぐに温かい飲み物を出してくださいました。今日はとても寒いので、まずは体を温めていただく準備しましたとのこと。細やかな心遣いに心まで温まりました。

ホスピスの概要とボランティア活動について説明を受けたあと、2グループに分かれて院内を見学しました。残念ながら病室は見学できませんでしたが、全体に木材を基調にした、落ち着いた作りで、患者さんの居室部分、ラウンジや浴室などの共有部分、研修室やボランティアルームがそれぞれ独立した形になっており、患者さんやご家族が気兼ねなく過ごせる工夫がされていました。また、手入れが行き届いた庭は、芝生にも池にも枯葉が一枚もなく「少しでも時間があると、すぐ外に出るんです」というお話に、ボランティアの日々の努力がしのばれました。



当院と同じくこちらでも患者さんが高齢化・重症化されていて、ボランティアができることも変わってきているとのことでしたが、聖ヨハネホスピスで夫を看取ったご家族がその著書で、このボランティアの活動について「手仕事の醸し出すあたたかさ、花の手入れを絶やさない細やかさ。必要のよう直接必要ではなく、ついあと回しになってしまうけれど、実は豊かな生活にとっては必要なことの数々」（河辺貴子著「河辺家のホスピス絵日記」）と語っておられますが、このような温かいおもてなしを、変わらずに患者さんやご家族に提供されていることを実感しました。

私たちが変化の中で戸惑うことがありますが、経験を重ねながら、その日その時必要とされることを、ていねいに行なっていきたいと思います。



病院敷地内にある植物シリーズ⑤ 「猫柳」

ヤナギ科ヤナギ属の落葉低木

早春、葉より先に赤褐色の鱗片(りんぺん)が取れて白い毛を密生した雄花穂や雌花穂が現れます。ふわふわとした感触とつややかな見た目が猫の尾に似ています。

永遠に続くかと思われた寒さがまもなく緩むことを、木々の変化は教えてくれます。

山の際に雪は降りつつ しかすがに
この川楊は 萌えにけるかも
(万葉集：作者不明)

明日葉の会へのお誘い

明日葉の会は、愛知国際病院ホスピスで大切な家族の看取りを経験した方々が集まり、思いを声に出し、分かち合う会です。「明日葉」という植物は、今日摘んだ芽が明日には伸びてくるといほどの生命力の強い植物で、それにあやかり会の名前としました。家族を看取られてから半年以上を過ぎた方を対象として、偶数月の第3土曜日午後2時から4時、病院の一室をお借りして集いを行っています。続けて来られる方も、間を空けて来られる方もおられますので、ご都合がつく時に自由にご参加ください。詳しくは世話人（家族代表）の太田博文までお問い合わせ下さい。

連絡先 〒470-1153 愛知県豊明市前後町三ッ谷1277-3 太田博文
TEL 0562-92-2294 Fax0562-92-8294 E-mail h-ohta@pop21.odn.ne.jp

賛助会員募集のお知らせ

愛知国際病院ホスピスでは、賛助会員を募集しています。アメニティーの充実（施設環境、造園、園芸）、ホスピスでの諸行事、ホスピス相談の充実、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。（ご入会いただいた方には年4回発行の病院だより「みなみやま」と年2回の本誌をお送りいたします）

入会方法

下記の口座に会費をお振り込み下さい。

郵便振替口座 00890-5-3757

口座名義 愛知国際病院ホスピス賛助会

一口1000円（おいくらでも結構ですが、できましたら5口以上でお願いいたします）